

## ■山陽小野田市 量の見込みの補正等について■

**教育・保育事業**

- ・総量で見ると、市全域では実績の 2 割増しの見込み量となっている。地域別で見ると、「小野田地区」はほぼ実績並みで見込み量が推計されている。「埴生地区」は緩やかに減少している。なお、「高千帆地区」「厚狭地区」は、実績の 1.5 倍以上増加の見込み量が推計されている。
- ・両地区（高千帆地区及び厚狭地区）は、今後の確保方策で供給量の確保が可能なのか、実績の数値の方が現実的なのか。
- ・また、地域に分ける必要があるか。

**地域子育て支援事業****(1) 時間外保育事業**

- ・平成 24 年度の実績は、市全域で 636 人であり、平成 26 年度の目標量 446 人を 1.3 倍上回っており、平成 27 年度の見込み量 696 人は妥当な数字と考えられる。
- ・4 地域別に分ける必要性はないと思われるが、一つで対応してもよいか。

**(2) 放課後児童クラブ**

- ・低学年の利用者は平成 23 年度 588 人、平成 24 年度 553 人と横ばい状態であり、平成 26 年度目標の 700 人の 8 割程度の水準となっている。
- ・今回のニーズ調査の結果では、高学年まで含めるため、初年度で 1,000 人超となっており、今後の各小学校の需給関係で、この数字の実現性はあるのか検討が必要である。
- ・実際の利用者人数（申込人数：ピーク時）は別紙のとおり。
- ・今回は市全体の数字になっているが、区域に分けることで、将来の供給量が明確に打ち出せる。このまま一つにするのか区域に分けるべきか。

**(3) 子育て短期支援事業(ショートステイ)**

- ・平成 24 年度実績が 23 人日で、25 年度実績も 23 人日である。
- ・見込み量は該当する利用意向率に利用意向日数を乗じたもの。平均利用日数は WS からは単純に 6 日となっている。
- ・ただ、23 人に 6 日をかけても 138 人日/年にしかならず、初年度の 360 人とは乖離がありすぎる。
- ・ここでは、平成 25 年度の実績がわかったので、当該数値を平成 25 年度の対象児童数 3149 人で除した出現率を用いて算出した方がいいのでは。

#### **(4) 地域子育て支援センター**

- ・現在、旧小野田地区に偏って設置されている。旧小野田地区に4箇所（高千帆校区にはない）。旧山陽地区に1箇所。実績数を利用してよいものか。
- ・ニーズ調査の数字は実際の利用実績数の4倍になっているが、どちらの数字を信じるべきか。
- ・地域別利用者の確認は各施設に確認することは可能である。実際、一人が他の施設と掛けもちで利用されている。

#### **(5) 一時預かり関連**

- ・一時預かりには、「幼稚園における在園児を対象とした一時預かり」「2号認定による定期的な利用」「一時預かりそれ以外」の3種類があるが、いずれも大きな数字となっている。
- ・平成24年度の実績は4,337日（この数字は現行の保育園利用者）である。これに対し、平成26年度目標は16,500日と平成24年度は4分の1程度の水準となっている。
- ・実績数は延べ人数の推移で予測していったらよいものか。
- ・今後も増加が予想されるものなのか。
- ・見込み量や確保の内容は、3つの数字を一つの表にしてはどうか。

#### **(6) 病児・病後児保育事業**

- ・「病児対応型・病後児対応型」の実績は、設置箇所2箇所ですべて平成23年度659人日、24年度633人日、25年度629人日でやや減少傾向にある。平成26年度目標は4,640人日と大きな数字となっており、乖離が大きい。これは、できれば利用したいという願望や、宇部市との協定により宇部市での利用も多いことが影響していると考えられる。
- ・本事業計画については、実績主体で目標設定するか。実施箇所数のみを目標とすることも考えられるので、当面は箇所数の2を目標値にすればよいのではないかと。

#### **(7) ファミリーサポートセンター**

- ・依頼会員は平成23年度195人、平成24年度232人、平成25年度268人と増加傾向にある。
- ・量の見込みは就学児のみを推移しており、低学年、高学年ともに「0」となっている。
- ・現在の対象年齢、就学児への拡大方向等で目標量を設定する方がいいのではないかと。